「元気が一番」塾　歌声あふれる学級に！　　2010.6.19　仲島 正教

【音楽の苦手な先生もそんな授業づくり・学級づくりにチャレンジ！】

１．音楽が苦手な先生は、音楽を教えることは出来ないのか？

・苦手なことは、逆にいえば、嫌なことや辛さを知っているということ。
・逆上がりが出来なくても、逆上がりは教えられる・・ということは音楽でも・・・
・ピアノが弾けない、歌が下手、楽譜が読めない・・・でもなんとかなるのでは・・

２．遠慮せずに教えてもらう　音楽の先生に、先輩に・・・

・どうしたらいいのか初歩の初歩から教えてもらう。これは恥ずかしいことではない、むしろそんな先生の姿勢をみて、先輩は必ず応援してくれる。
・遠慮せずに「つくって下さいと頼んでみる」　　音楽ＣＤ、カラピアノＣＤを。

３．元気よく大声がいいの？　それともきれいな頭声発声？・・・気持ちがいいのは

・人が気持ちよく歌っているときは、地声か、頭声か？　大声か、小声か？
・音楽の授業が嫌いな人でも、音楽が好きな人はいっぱいいる。
・自分がなぜ苦手になったのか。なぜ嫌いなのか考えてみる。音楽授業の改善へ

４．発声練習は大事・・・だから楽しく気持ちよく

・♪恋は水色 → ダンスと共に　　・教科書使って、えんとつ式発声
・「静かにしなさい！」を発声練習で　　・歌詞も「心を合わせて歌おうよ」
・校舎の階段は、素敵なコンサートホール → きれいに響いて気持ちがよくなる

５．曲の選定は、とっても大事・・・どの歌を選ぶかによって声も学級も変わってくる

・地声ではなく、頭声で歌いやすい曲を選ぶ
・詩が子どもの心に入る曲を選ぶ⇒⇒心を合わせて歌う⇒⇒歌で学級づくりができる

６．歌が上手になる指導のコツは、ほめる、ほめる、ほめる・・・そして書く、話す

・自分が下手だからこそ、ほめ上手になれる　・学級通信に書くともっとよくなる

７．歌で始まり、歌で終わる一日に・・・そんな環境が子どもを変える

・朝の会、終わりの会では、歌を歌う → 日番ができるようにしておく（ＣＤ準備）
・子どもが希望すれば、好きな曲はどんどんダビングしてやる。

８．いろんな場所で、歌う機会をつくる・・・音楽が生活の中に入り込む

・保護者の前でミニコンサート　・ランチルームで調理員さんたちに歌のプレゼント
・敬老会で、なつかしい歌の披露　♪ふるさと♪赤とんぼ
・遠足・・須磨で「海へ行こう」野山で「ゆかいに歩けば」奈良で「若草山コンサート」
・転校する子とのお別れ会「さようなら〇〇さん」・・思わず泣いてしまう
・３学期には学級や学年でラストコンサート、そして卒業式は、最後の晴れ舞台

９．歌は、思い出とセットで記憶されていく。　　・歌で泣ける、そんな体験をしたい